



東京オペラシティ文化財団
〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2
tel:03-5353-0770 fax:03-5353-0771
email:award@toccf.com www.operacity.jp

プレスリリース
(本文 4 ページ+プロフィール 3 ページ)
2004 年 4 月 26 日

各位

「武満徹作曲賞」および「武満徹没後 10 年記念特別プロジェクト」について

拝啓

平素は東京オペラシティ文化財団の事業に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、世界中の若い作曲家を対象としたオーケストラ作品コンクール「武満徹作曲賞」につきましては、1997 年の創設以来、皆様の温かいご支援のおかげをもちまして内外における知名度は高まっており、関係者一同心から感謝申し上げる次第です。

このほど当件につきまして大変重要な決定がなされましたので、とり急ぎ皆様にご報告申し上げますとともに、当資料をご高覧の上、周知ご協力いただけますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

記

- ① **審査員ジョン・アダムズ来日不可能により、2005 年度武満徹作曲賞およびコンポージアム 2005(2005 年 5 月)は中止といたします。**

詳細は 2 ページをご覧ください。

- ② **2006 年 5 月は、武満徹作曲賞およびコンポージアムに代えて、武満徹没後 10 年を記念した特別プロジェクトを実施する予定です。**

詳細は 3 ページをご覧ください。

①②により、武満徹作曲賞およびコンポージアムは、2005 年と 2006 年の 2 年間休止となり、2007 年より再開されます。

- ③ **2007～2009 年度武満徹作曲賞 審査員が決定しました。**

| | | | | |
|--------|--------------|-------------------|-------|------|
| 2007 年 | 西村 朗 | Akira Nishimura | 1953- | 日本 |
| 2008 年 | スティーヴ・ライヒ | Steve Reich | 1936- | アメリカ |
| 2009 年 | ヘルムート・ラッヘンマン | Helmut Lachenmann | 1935- | ドイツ |

詳細は 4 ページをご覧ください。

■お問い合わせ⇒ 東京オペラシティ文化財団

tel:03-5353-0770 fax:03-5353-0771 email:award@toccf.com

〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2 www.operacity.jp

① 審査員ジョン・アダムズ来日不可能により、2005年度武満徹作曲賞およびコンポージアム2005(2005年5月)は中止といたします。

2005年度武満徹作曲賞の審査員をつとめる予定だったアメリカの作曲家ジョン・アダムズ John Adams 氏(1947年生まれ)より、本年1月末、当財団あてに『2005/2006 シーズンにサンフランシスコオペラにおいて予定されている新作オペラの初演日程変更により、2005年初夏までに作品を完成させなければならなくなり、譜面審査および2005年5月に日本を訪れての審査に従事することができなくなったため、審査員を辞退したい』旨連絡がありました。

これを受け、当財団ではミュージック・ディレクター池辺晋一郎とともに対応を協議し、約2ヶ月間にわたってアダムズ側と交渉を重ねてきましたが、アダムズ氏ご本人としては、誠に申し訳ないことではあるがオペラに専念せざるを得ないという意志は固く、翻意には至りませんでした。

アダムズ氏ご本人および関係者からは審査員変更のご提案もありましたが、当財団では慎重な検討の結果、下記の理由により、誠に残念ながら、2005年5月下旬に予定していた2005年度の同作曲賞の実施およびそれに伴う同時代音楽フェスティバル「コンポージアム2005」を中止する方針を決定いたしました。

- 1 この作曲賞は、毎年ただ一人の作曲家が審査にあたるということが最大の特徴であり、審査員名はあらかじめ充分な時間的余裕をもって発表されている。2003～2005年度審査員については、すでに2001年から国内外において広く告知しており、2005年はジョン・アダムズ氏が審査にあたることは周知の事実となっていた。
- 2 さらに、一人の審査員体制ということは、応募者は必然的にその審査員を考慮して作曲をすることになり、このことが当作曲賞の大きな特徴である。従って急な審査員変更は当プログラムのいわばプリンシプルを変えることになるのに加え、応募者に対して目標を失わせることになる。
- 3 審査員選考にあたっては当財団アドバイザー(国内外)による投票を行っており、今回のように募集締切(2004年9月30日)6ヶ月前という短期間でその手続きを再び経ての審査員変更ならびに、応募者への周知徹底は困難である。
- 4 また、次ページ以降の②および③の作業開始後に生じたため、一年延期等の対策を考えることができなかった。

応募をお考えになっていた作曲家のみなさま、ジョン・アダムズ氏の来日を楽しみにしていただいた音楽ファンのみなさま、そして日頃より武満徹作曲賞を支援して下さる関係各位に対し、心よりお詫び申し上げますとともに、今回の決定に対してなにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、2005年度作曲賞に対しては、すでに数点の応募がありましたが、作曲者の希望があれば、そのスコアを当財団に保管し、次回(2007年)の応募作品といたしたく存じます。

また、次ページで紹介している②武満徹プロジェクトの計画に伴い、2006年の作曲賞の実施は予定されておらず、結果的に2年間の休止となります。この間に年齢制限(締切年の年末において35歳以下)を超過し、参加機会を逸してしまう事態を避けるため、2007年度武満徹作曲賞(募集締切2006年9月30日)に応募しようとする作曲家の年齢制限を、2006年(締切年)年末において「37歳以下」(1969年生まれまで)といたします。

以上

**② 2006年5月は、武満徹作曲賞およびコンポージアムに代えて、
 武満徹没後10年を記念した特別プロジェクトを実施する予定です。**

2006年は東京オペラシティ文化財団の芸術監督だった武満徹の没後10年にあたります。加えて、武満徹作曲賞が2005年でちょうど3サイクル(9年)を終了することもあり、2006年は、例年「武満徹作曲賞本選演奏会」を含むフェスティバル「コンポージアム」を実施している5月を中心に、これに代えて、武満徹没後10年を記念したプロジェクトの実施を計画しております。

武満徹作曲賞は2007年から再開いたします。(2007-2009年度の審査員は4ページをご参照ください)

このプロジェクトは、コンサートホールとアートギャラリーを擁する東京オペラシティの特徴を活かし、2006年4月から6月にかけてアートギャラリーで「武満徹展(仮称)」を開催し、あわせて映画上映、コンサートホール等での音楽会など多彩な催しを計画しています。プロジェクト全体の芸術監督は、当財団のミュージック・ディレクターでもある作曲家の池辺晋一郎氏がつとめます。

「武満徹展(仮称)」は、一作曲家という枠を超えて、映画、美術、文学、思想など、多様な領域に関心を示した彼の活動を多層的多面的に紹介することにより、武満徹というユニークな個性の軌跡を軸に、実り豊かな展開を見せた戦後日本の文化史を浮き彫りにしようとするものです。

プロジェクト全体の企画内容詳細については2005年5月ごろに発表予定です。

なお、このプロジェクトは、前ページの事態が生じる以前より立案・計画されていたため、作曲賞は2年間休止となります。

この点につきましてもみなさまのご理解を賜りたくお願い申し上げます。

以上

③ 2007～2009 年度武満徹作曲賞 審査員決定。

世界中の若い世代の作曲家を対象に新しいオーケストラ曲の創作を呼びかける「武満徹作曲賞」は、毎年ただ一人の作曲家が審査にあたることや、受賞者のその後の活躍などで内外に広く知られています。1997年以來、2004年で8回を数えます。

2005年と2006年は、作曲賞は実施されません(2～3ページ参照)

このたび、2007～2009年度武満徹作曲賞審査員を、下記の通り決定しました。

選考は、当財団ミュージック・ディレクター池辺晋一郎の監修で作成した候補者リストをもとに、当財団のアーティストック・アドヴァイザーである7人の指揮者/作曲家(岩城宏之、オリヴァー・ナッセン、ケント・ナガノ、大野和士、サイモン・ラトル、エサ＝ペッカ・サロネン、若杉弘の各氏)ならびに、2003～2005年度同作曲賞審査員であるジョージ・ベンジャミン、マグヌス・リンドベルイ、ジョン・アダムズの各氏による投票方式で行いました。

投票は2003年に行い、得票上位から依頼・交渉した結果、2004年初頭に次の3人の作曲家から承諾を得ました。

| | | |
|--|-------------------|------------|
| 2007年 西村 朗 <small>(2006年9月30日締切・締切年の年末において37歳以下が対象)</small> | Akira Nishimura | 1953- 日本 |
| 2008年 スティーヴ・ライヒ <small>(締切日未定・締切年の年末において35歳以下が対象)</small> | Steve Reich | 1936- アメリカ |
| 2009年 ヘルムート・ラッヘンマン <small>(締切日未定・締切年の年末において35歳以下が対象)</small> | Helmut Lachenmann | 1935- ドイツ |

各作曲家のプロフィールは、5～7ページをご参照ください。

なお、2008年度のみ、審査員スティーヴ・ライヒ氏の提案により、従来のオーケストラ作品ではなく、アンサンブルのための作品を対象といたします。編成・条件等詳細につきましては、新しい要項が完成し次第お知らせいたします。

以上

これまでの審査員(国籍)

| | | |
|--------------------------|---------------------|---------------------------|
| 1997: アンリ・デュティユー(仏) | 2000: ルイ・アンドリーセン(蘭) | 2003: ジョージ・ベンジャミン(英) |
| 1998: ジェルジ・リゲティ(ハンガリー→匈) | 2001: オリヴァー・ナッセン(英) | 2004: マグヌス・リンドベルイ(フィンランド) |
| 1999: ルチアーノ・ベリオ(伊) | 2002: 湯浅譲二(日) | 2005: ジョン・アダムズ(米)→中止 |

2007 年度武満徹作曲賞審査員

西村 朗 Akira NISHIMURA

1953 年大阪市に生まれる。73～80 年、東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。

西洋の現代作曲技法を学ぶ一方で、在学中よりアジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観等に強い関心を抱き、そこから導いたヘテロフォニーなどのコンセプトにより、オーケストラ曲を中心に多数の作品を発表している。

日本音楽コンクール作曲部門第1位(1974)、エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞(1977・ブリュッセル)、ルイジ・ダルツラピッコラ作曲賞(1977・ミラノ)、尾高賞(1988・1992・1993)、中島健蔵音楽賞(1990)、京都音楽賞[実践部門賞](1991)、日本現代芸術振興賞(1994)、エクソンモービル音楽賞(2001)、第3回別宮賞(2002)等を受賞。また、2002 年度芸術祭大賞に「アルディッティ弦楽四重奏団プレイズ西村朗『西村朗作品集 5』」が選ばれる。93～94 年、オーケストラ・アンサンブル金沢のコンポーザー・イン・レジデンス。1994～97 年、東京交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンス。

近年、海外においては、ウルティマ現代音楽祭(オスロ)、「ノルマンディの10月」音楽祭(ルーアン)、アルディッティ弦楽四重奏団、クロノス・カルテット、ELISION、ハノーヴァー現代音楽協会等から新作の委嘱を受け、ウィーン・モデルン音楽祭、「ワルシャワの秋」現代音楽祭、MUSICA・ストラスブール音楽祭、プリスペイン音楽祭等において作品が演奏されている。

現在、東京音楽大学教授、(社)日本作曲家協議会理事の他、2000 年より大阪いずみホールにおける現代音楽シリーズ「新・音楽の未来への旅」の企画監修、及びいずみシンフォニエッタ大阪の音楽監督を務めている。

2008 年度武満徹作曲賞審査員

スティーヴ・ライヒ Steve Reich

1936 年ニューヨーク生まれ。57 年コーネル大学哲学科卒業。57～58 年ホール・オーヴァートンに作曲を師事。58～61 年ジュリアード音楽院にてウィリアム・バーグスマとヴィンセント・パーシケッティに師事。また 63 年にはミルズカレッジで音楽博士号を取得。同校ではルチアーノ・ベリオとダリウス・ミヨーに師事した。

66 年に 3 人から成る自らのアンサンブル“スティーヴ・ライヒと音楽家たち”を創設。このグループはまたたく間に 18 人以上のアンサンブルに成長し、71 年より現在に至るまで、カーネギーホールやロイヤル・フェスティバル・ホールをはじめ世界各地で公演を行い、絶大な人気を獲得している。

70 年夏にはガーナ大学アフリカ研究所にてドラミングを習得。73 年、74 年には、パリのガムラン音楽を学び、76～77 年にはニューヨークとエルサレムでヘブライ經典の伝統的詠唱法を研究した。

84 年、初の大規模管弦楽曲《砂漠の音楽》を発表、絶賛を博す。88 年秋にはロンドンのサウスバンク・センターで 10 日間にわたるライヒ回顧展が開催され、ここで発表された《ディファレント・トレインズ》によって、あらかじめ録音された人間の話し言葉が楽器への音楽的な要素に成り得るといふ新しい作曲語法を示した。ニューヨーク・タイムズはこの作品を、「唯一可能な限りの表現のように思われる驚異的なオリジナリティをもつ曲であり、決定的に痛ましいほどの感情的なインパクトを放っている。」と称賛している。90 年、ノンサッチ・レーベルでクロノス・カルテットにより録音された本作品は、グラミー賞(ベスト・コンテンポラリー・コンポジション部門)を受賞した。

93 年にはヴィジュアル・ミュージック・シアター《The Cave—洞窟—》を、ビデオ・アーティストのベリル・コロットと指揮者ポール・ヒリアーとともに製作、世界各地を巡回公演。99 年、《18 人の音楽家のための音楽》で 2 度目のグラミーを受賞。同年 7 月には大規模な回顧展がリンカーン・センター・フェスティバルにて開かれた。2002 年、《The Cave》に続く大作《3 Tales》を発表。

94 年アメリカ学士委員会、95 年にはパリエルン芸術アカデミーに選出され、コマンドゥール芸術文化勲章を授与されている。2000 年、コロンビア大学よりシューマン賞を授与された。

2006 年には、70 歳を記念する大規模なプロジェクトが欧米で予定されている。

公式ウェブサイト <http://www.steverreich.com/>

2009 年度武満徹作曲賞審査員

ヘルムート・ラッヘンマン Helmut Lachenmann

1935年シュトゥットガルト生まれ。55年から58年までシュトゥットガルト音楽大学にてピアノ、作曲、理論を学び、60年までヴェネツィアでレイジ・ノーノの最初の弟子となった。その後、シュトゥットハウゼンにも師事。65年にはベルギーのヘント大学の電子音楽スタジオに勤務。60年代前半からベネツィア・ピエーナレやダルムシュタット国際現代音楽夏期講習などで作品を発表し、当時はノーノの点描的な作風に強く影響を受け、ポスト・ウーベルンの流れを色濃く見せていた。しかし60年代後半からはより新しい音楽語法などを見出し、《tem A》(1968)、無伴奏チェロのための《プレッション》(1969)、打楽器奏者とオーケストラのための《エア》(1969)の一連の作品では、斬新な楽器の扱いにより新たな境地を見せ始めた。70～80年代を通して彼の作品は発展し続けたが、常に伝統的な要素を背景に垣間見ることができる。近年は、その伝統的要素を表すポスト・セリー語法をはっきりとした形でとりあげている。

国内外から様々な賞を受賞。66年から70年まではシュトゥットガルト音楽大学、72年から73年まではバーゼル大学、76年から81年まではハノーファー音楽大学で教える。78年からダルムシュタットの夏期講習で講師をつとめ、81年から99年まではシュトゥットガルト音楽大学で教授として後進の指導にあたった。加えて、アルゼンチン、オーストリア、ブラジル、カナダ、チリ、ドミニカ共和国、フランス、ドイツ、日本、オランダ、ノルウェー、ロシア、スペイン、スイス、アメリカなど多くの国でレクチャーを行っている。彼の作品は世界中で演奏され、ザルツブルグ音楽祭をはじめ各地の音楽祭のテーマ作曲家としてとりあげられている。

最近では、2000年3月、歌劇《マッチ売りの少女》(1997年ハンブルクで世界初演)の演奏会形式日本初演、ならびに2003年12月にサントリーホール国際作曲委嘱シリーズでのオーケストラのための《書》の世界初演(いずれも秋山和慶指揮東京交響楽団)の際に来日している。